

# 異常兒童の話

ドクトル 富士川 游

(フレーベル會常集會講演速記)

唯今御紹介を請けました富士川でございます。先達つて倉橋さんから、何か此會で話をするやうにといふ話でありましたが、教育上のことにつきましては別段に取り立て、御話を致すといふ材料も持つて居りませんので、子供の身體のことに就て、何か御話を致して宜しいならば罷り出ませうと申しますと、それでも宜しいといふ話で、異常の子供の精神の有様が、普通の子供と違つて居る。其子供に付て概略をさせうといふ、御約束をして居つたのです。極く短かく、又極く専門に互りませぬで、纏つた所を御話して見たいと思ひます。教育を専門として御居でになります御方には子供の中に、精神が當り前でない。即ち普通と違つた者が澤山あるといふことは御認めになつて居ることであらうと思ふ。其精神が、當り前と變つ

て居りますといふても、専門の學問、醫學の中で精神病理學、或は神經病理學といふやうな、専門の學問からして、詳しく検査をして見ますと、中に色々澤山な種類がある。唯だ一通り變つて居るとやらに見えても、實際は、さう唯だ一通りの異常ばかりでなしに、その中に色々な種類があるのであります。それで夫れを、實際の目的からして、どういふ風に區別し分類すれば宜からうかといふ事になりまして、それに就て色々の説が出、又諸家の研究が出ましたが、しかしまだ纏つた説はないのでございます。我國にも、それに關して二三の書物が出て居りますけれども、無論纏つたものではありませぬ。それで皆様が一つの書物を御覽になりまして、それから他の書物を御覽になれば、全く違つたことか書いてある場合がある。今は故人になりました大村仁太郎氏が、兒童矯弊論といふ本を出して居られますが、これは獨逸のシヨルツといふ人が、餘程前に書きました本に據

られたやうであります。

それから乙竹さんの低能兒教育法といふものがある。これは瑞西のドモオアといふ人の書物に基いたものであります。

それから私共が呉、三宅の兩博士と一處に書きました、教育病理學といふ本は大體コッホといふ精神病の専門の學者の著述に據つたのであります、柳博士の著述も、大體に於て同様であります。

それで、今日まで我邦に行はれて居る異常兒童に關する著述は、何れも獨逸の醫者の書きましたものに據つたのであります。しかし、本家の獨逸にも今日まだ、この問題に就て纏つたものはないのであります。

それで私が御話しますのは、固より私の専門の方から申すのであります、實際に子供を御取扱になる御方、即ち教育の實際に、御關係になつて御居でになる御方の御考とは、多少違ふかも知れません。これは豫め御斷りして置かねばならぬの

であります。先づそれを御斷りして置いて、それから今日まで研究を致しました所を、成るべく専門に互りませんで簡單に御話申したいと思ひます

子供の精神状態は、無論身體と離れて別にあるものではないのであります、重に精神のことを論ずる爲に、精神の方面のみを引抜てお話致すのであります。古からの心理學の言葉で云へば、人間の精神作用は三つに別けるのであります、私は今それを智力と性格との二つに分けて、さうして此性格の方を、感情と意志とに分ける。これまで色々の人が色々の別げ方をしてやつて見ましても、どうしても實際の應用に便益が少いといふ事から諸家の意見が纏らぬのであります。

それで私はこれを感情の異常、意志の異常、この二つを引繰るめて、性格の異常、それから智力の異常とするのであります。異常といふ事は分り切つたことで、尋常と異つて、尋常から外れて、上の者も、下の者もある。これが大體の論であ

ります。それを少し詳しく申しますと、第一感情の異常、どういふ風に變るかといふのに、非常に感情が發揚をして來る。又はこれに反して感情が遅鈍になる。遅鈍となるのは病氣であります。感情の發揚をしたものは神經質と云ふ性格を顯はして來ます。神經質とはどう云ふ風なものであるかといふに、チヨット説明は仕悪いが、實際世の中に多くあるものであります。普通の人であれば何んでもない事が、其人に於ては非常に恐ろしく感ぜられる。普通の人であれば、何んでもない事が恐ろしい。學校の生徒が自殺するとかいふのは、他に原因もありませんが、大抵は神經質の子供であります。普通の子供なれば罰を食つた位なことで自殺するものではない。此神經質のことは、醫學を専門にした者の診斷を経なければならぬ。しかし、神經質となる原因は、教育の方と關係があることであるから、心得て置いて載きたい。

神經質を起す原因は第一疾病意識といふもので

ある。疾病意識といふのは、たとへば親が子供を非常に丈夫にしたいといふ考へで、少し子供が病氣をすると直に藥を飲ませる。冷水磨擦をさしたり、あれやこれやと無暗に治術を施す。頻りに豫防法を講じて心配する。さういふ風になると、子供の精神に疾病意識が出來て、それが爲に遂に感情の發揚を起して來て神經質になる。これが大變に多い。幼稚園の子供のうちにも大分この類のものはあらうと思ひますが、現に小學校の子供には大分これがある。少し頭が痛いといふと、何んでもないのに、御母さんが心配して、それ御醫者さんそれ御藥と喧く、其次には頭が本統に痛くなる。即ち神經質になる。第二は名譽心の亢盛、學校の成績を一番にしよう二番にしよう、優等生にしよう、大勢かゝつて以て小供の名譽心を挑發するために感情の發揚を起して神經質になる。それから、日本では無いことでありませうが、第三が飲酒が原因になる。全體精神異常になり易い子供は、

酒に大變に弱い。醫者の言葉で、飲酒不堪と言つて居りますが、普通の人は何ともない位の量の酒に非常に酔ふ。こういう風の場合には酒が神経質の原因をなすことがあります。其次には學科の過度で、ヒドクむつかしい事でない限り、精神の普通の者は、少し位學科が重いと云つて、それが爲に直ぐ神経質にはならないのでありますが、素因のあるものには、これも矢張神経質を起こす原因になる。

第二意志の異常、狭い意味の異常性格、或は病的性格、チヨット御断りして置きますが、普通の性格の異常、即ち精神状態が普通であつて、それにおこる所の異常は別であります。今お話致すのは病的の性格で、性格が病的の變化を起したのであります。この性格の異常は無論病氣から來るのであります。その一番目はヒステリー性の性格でこれは子供に多いものであります。ヒステリーとは一體どう云ふ病氣かといふに、これは生れ付あ

るのでありまして、詰り前の代、両親から貰つて來た病氣であつて、自分の考には何んにもないことか、これが身體に觸る。自分の考にはハツキリ出て來ない考が、それが身體に觸る。例を云ふと何處か腹が痛いといふやうな事が十分意識には上つて來ない前に直ぐ腹が痛くなる。これは親から譲つて貰つて居る病氣であつて、少し感情が變動すると、直ぐ身體に障礙が出て來る。眼が見へないと思ふと、實際見へないのではないけれども其人には見へない。何處が麻痺れると思ふと、實際は麻痺れて居なくとも、其人には麻痺れた感覺がする。何等の感情が明に意識に上つて來ないし直ぐ身體に出て來る。でありますから、歩ける身體でも、歩けないと意識すれば、實際に歩けなくなる。それがヒドクなると、顔筋が釣れたり、目がつれたりする。殊に是は男より女に多いのです。大きくなりなると、想像力が非常に強くなつて、何んでもないことに非常に想像を強くする。其結

果は嘘をいふ、病的に嘘をいふやうになる。これは子供或は婦人の或部分には随分あるのであります。嘘にも色々ありますけれども、實際記憶を間違へて言ふのではない。想像力を逞ふして、殊に人の弱點を拾ひ上げて、それをやかましくいふ。善惡に拘はらず非常に悪口をいふやうな事がある。詰り弱い感じがすぐ身體の中にも現はれると同じやうに、精神にも斯ういふ風に現はれて来る。又何體ともなくづう／＼出て歩く、目的なしに彷徨する。自分も何處に行くか知らないでブラ／＼行つてしまふことなどもあります。それが高じると精神病になつて来る。

其次には癲癇といふ病氣になつて、性格が變つて来る。癲癇の重いものはヒドイ痙攣が起きて、口から泡沫を吹て、ヒツクリカヘルのであります。が、そういふヒドイのでなしに、不意に顔色が蒼くなつて身體が震へたりする位のことがある。これも矢張り一種の癲癇であります。専門の醫者が

見れば、癲癇といふことは直ぐ分る。この場合に顔の色が蒼くなつたり、頭が後ろの方に段々行つて、絶えず手が震へるといふ風になつて来る。

さう云ふ子供は行儀が正しくて、物事が大變几帳面で、學校の道具でも何んでも鄭重に整理して置く、何でも物事を嚴格にしないでは濟まぬといふ風になる。其變りナカ／＼我慢が強く、強情でナカ／＼人の言ふ事を聴かない。それから物を集める癖がある。それからもう一つ前のヒステリー性の性格と違ふ所でありませんが、此性格には自分を銜ふといふ風な事がある。それから酒を飲むと大變弱い。斯う云ふ性格の人が酒を飲むと身體に害をする。それからもう一は寢小便をする。十歳になつても十二歳になつても寢小便をやる。斯ういふ徴候のある子供は、専門に見なければ充分には分りませんけれども癲癇のものが多し。これが募ると到頭精神病になる。

其次には神經衰弱、神經衰弱性の異常性格が神

經衰弱といふ病氣のために現はれて来る。神經衰弱といふ病氣は、生れた時に矢張り親から傳はるのと、生れてから後にヒドク精神を働かした爲に來るのと二つある。生れてから後に精神を過度に動かした方は癒りますけれども、生れ附の神經衰弱の方は癒らない。さうしてこれが神經衰弱の異常性格として現はれるのであります。其性格の極く著しいのは、どういふ風であるかと云へば、仕事をすると頭が痛くなる。それからある子供になると、學校に行くやうな時分から頭が痛くなる、さうして學校に行つて、課業が始まると順々痛くなる。晝頃になつて、學校の課業が済む頃になつて漸々癒る。宅に歸る時分になるとスツカリ痛みが止まる、だから脇きからは學校に行くのが嫌いで、頭が痛いといふ風に見へる。さうではない、仕事をするといふ事に關係して痛みか付いて來るからチヨット見分け悪いのであります。さうして頭が非常に散亂して、學校の成績も無論悪い。

それから強迫觀念がある。何でも非常に物事が恐ろしくなる。何か知らぬ恐ろしい、恐怖を感じずる。學校に行つても教室が怖い、教師が怖いといふやうな色々の恐怖が出て來る。殊に斯ういふ子供は、其恐怖が試験前に出て來る。下調べも何も出來ない。ただぼんやりして居る子供が随分澤山あるのであります。これもヒドクなりますと、矢張り神經衰弱性の積精神病といふことになる性格であります。此性格の子供は、學校が幼稚園などでは能く氣を付けて見ると、袂を噛むとか、爪の尖を噛み切るなどの悪癖を持って居る子供が多いのであります。

其次には意志の薄弱で、これは病的に意志が弱くなるのであります。利口な子供で學問も能く出來るがしかし學問も余りしない。すれば出來るけれども、物事をするのに大變懶惰で、學校の成績なども面白くない。勉強すれば出來るけれども意志が弱い、物事をする意志が弱い、これが病的に

起きる④でありませす。

其次は悖徳性の性格、これも病氣にあるのであります。智力が非常に劣つて居て、随分人のものを取る。放火をする、物を投げるといふ風なものである。精神病でなしに身體に何か異常があつて悖徳の性格を起こす。これには道德的觀念だけ欠けた場合もありませす、さうでなしに唯だ精神の發育の鈍いといふことに本づくものもありませす。これはもう少し調べなければ、よくはわかりませぬが、さういふ性格で、道德的觀念の非常に變つた者があるのは事實であります。

其次は變質性の性格、變質性といふのは、身體及び精神が普通でない、定型でない、人並と違つて居る。その爲に一種の性格を起こして來るのであります。精神病では無論ない。しかし健康ではない、丁度健康と異常との間に屬する部分の者であります。此性格の者には身體にも色々の異常がある、頭の形が違つて居る、眼の形が違つて居る

鼻、口色々の所が違つて居る、耳も形も色々違つて居る。或は耳の上に光つたやうなものがあつたり、角があつたすりる。マカクス型の耳を持つたものもある。肋骨の骨も違つて居る。普通の人間には十二あつて、下の二つか動くけれども、三つ四つも動くといふやうな人がある。

それから乳が二つあるのが、普通であるのに、それがモツト澤山あつて、四つあつたり六つあつたり十二あつたりする人がある。さうしてどの乳房からも乳汁の出るものもある。さういふ風に身體に色々違つた所がある。それを身體の變質徴候と云つて居りますが、一つや二つや身體に異常があつても、それだけで變質といふ譯けではない。耳が變つて居る、眼が變つて居るといふ風に澤山に集つて居なければ、變質といふ澤けではない。しかし、さういふ者にその變質性の性格が多いといふことは事實である。それで性格の異常といふことは、先づ大體御分りになつたと思ひませす。

其次は智力の方の異常であります。智力の方の異常といふことも、これも色々種類があつて、一番ヒドイものは逆も教育は出来ぬもので、所謂白痴といふので有ますか白痴といふ者は、學校なり幼稚園なりに入れて教育は出来ない。其次のが魯鈍といふので有まして、これは幾らか物になるのて有ます其上が痴愚といふので有ますしかしこの精神の薄弱には二種類ある。即ち本統に智慧の足りないのと、假に智慧の足りないのと一つである。この假性の痴呆といふ事に就ては少し詳しく話したいことがありますけれども、時間がないのでありますから今日は極く略して御話して置きます。生れてから、當り前の精神の機關が發達をして居ない、發達すべき精神が發達をして居ない、それで此白痴といふものは多くは出来るのです。それで痴呆は大抵は生れ付であります。ところが生れてから後に何等かの機會によりて、白痴呆になるといふことがある。殊に熱病などの爲めに痴呆

になるものがある。是は極く僅かでありませんが、ういふのがある。痴呆は智力の衰へて居るのは無論であります、しかし、記憶力だけ非常に卓越したものがあつた。自痴院に這入るもの、中で自分で自分の着物を着ることも出来ず、靴をはくことも出来ぬもので、百七十年前、二百年前の一週の曜日を知つて居るものがある。

さういふ風な場合に記憶力が非常に發達して居る場合は、少くとも其兩親は決してこれを痴呆とは認めない。痴呆といふことには非常に不賛成であります。

東京の或所で以て、二錢銅貨を以て、火を點けて、澤山の家を焼いた不良少年がある。年は十二か何んぼうで、學校の教育は受けて居りませんが人と會つた時の挨拶なんかは出来るし、他の子供と較べて見ても、左程劣つて居るとは思はれなかつた。今日でもさういふ者があつた所で、チヨツト見た位ではナカ／＼白痴呆とは思はれない。余



程詳しい鑑定をしなければならぬ。斯ういふものを痴呆と診断することは、餘程六ヶ敷事であらうと思ふ。それに假性の白痴といふものがある。これは一層むつかしくなる。假性の白痴といふのは身體に何か申分があつて、さうして智力が衰へて居る。例へば耳が聞きえないとか、鼻の中に故障があるとか、鼻咽腔腺殖生の出来て居るとかいふことで、精神の状態に異常を起こす。其爲め物を注意することが出来なくなる。注意の散漫といふことが非常に著しくなる。記憶力が少くなつて一つ事を長くやる事が出来ない。これをアブロセキシイといふのであります。此の如く物事を一定に注意することの出来ないのは、學校の子供にも澤山あります。じつとしては居られないで騒ぐ、さう云ふ風な假性痴呆は重もに五官に觸りがあるので眞性の痴呆とは少しく違ふ。假性白痴は療治すれば癒る。本統の白痴といふものはこれは癒らぬ。大體さういふ風に、精神の薄弱な者に付いて來

るので、假性の者と、それから本統の者と、つまり其原因は同じことであります。

身體の方の徴候には、醫學の方でいふ刺戟性神經症狀、此症候は神經が動く、手足が上や下に動く。あの足を揚げる運動なんぞの時に、ビリビリと震るへるやうになる。俗にいふ『けんびき』、さういふ風になる。臉が引付ける、顔を皺める、殊に幼稚園とか小學校の生徒には、注意して見ると斯ういふ神經衰弱の性格の者が澤山あり、又指の尖きが逆剝ける、さういふのが澤山ある。爪を噛むのもある。これ等は皆な悪い徴候であります。それから其次には、矢張り酒を飲むといふと大變弱い、害をする。それから此智力の異常の前

に御話をした癩癩といふもの、あれが非常に多い。それで精神の異常の兒童、即ち異常兒童は、これを取扱ふ人が早く見付けて、さうして相當の取扱ひをするといふことが大變必要なことであると思ふ。極くザツト搔ひ撮んで申したのであります

けれども私はこれで、異常の児童といふものはこれで分ることと思ふ。

此別け方は唯だ私の考へでありまして、纏つたといふ程ではないのでありますけれども、先づさういふ風にやつた方が宜からうと思ひます。それに就てどうして異常児童を見付けるか、これが實際の問題であります。

それならば、子供を取扱ふ人が、どうしてこの精神の異常を見付けるかといひますと、診断の標準となるのは、大體は次の通りであります。

刺戟性薄弱、こういふ徴候が、一番先きに身體に出て來ると云ひましたが、どう云ふ事かといふと、神經が疲弊する、神經が薄弱になるのであり、普通の人の當り前の神經といふものは、チヨットした事で疲弊するものではない。ところが少しのことで以て疲弊するといふことが異常な児童に一番先きに現はれて來る。チヨットした事で以て、其反應が非常に激しくなるのです。それが

身體に色々現はれて來るのでありますから、先程申した通り、筋肉の運動障礙を一番先きに起す身體が、じつとして居られない。此事位は我慢してやるのが、當り前でありませうけれども、我慢が出来なくなる。長い間の運動が出来ない、それから運動が確實でない、身體を動かすことが確實に出来ない、其次には言葉が當り前に出来ない、或は吃るとかして當り前に出来ない、其次には文字を書く事が當り前に書けない、書く文字が不同に成り易く、又歪み易い、さういふことが一番先きに眼に付くのであります。

其次には精神の異常、精神の異常で一番先きに眼に付くのは性格が變つて來る。非常に我儘であるとか、強情であるとか、嘘を突くとか、人の悪口をいふとか、それから非常に物を誇大にする癖がある。さういふ事が著しく眼に付く。

それから其次には、感情が非常に過激になつて來て、怒つたり泣いたりする。刺戟性が薄弱にな

る。普通の人であれば、何んでもない事を恐れる小學校の生徒で、何か悪い事をした。それで罰をやる。罰をやる場合に、普通の子供ならば大變怖かつて居るのに、罰を受けて却つて喜んで居るといふ者がある。それは異常の性格の子供に多い。それからして智力の劣つたもの、智力の異常の一番先きに現はれるのは、何事をするにも興味がない、興味を持つて遊ぶのが當り前であるのに、遊ぶにも興味が無い、物をするにも興味が無い。それから精神を集中することが出来ないとか、或は記憶することがむづかしい。一番眼印になるのは、被影響性が非常に強いことである。人からして何かされると直ぐ其通りになる。心理學の言葉でいふと暗示といふ。暗示に直ぐ乗る、暗示を與へると其通りになる。被影響性が非常に強い、異常兒童は智力の關係を以て、非常に性格が變るのには、特有性である。チョットした事でも、非常に影響を受ける。人が首を縊つて死ぬると直ぐ真似

る、泥棒をするると直ぐ泥棒をする。或る小學校の生徒が講談を聴きに行つて泥棒の若い時の話を聞いた。何んでも八つか九つかの時に、人と喧嘩をして人を殺した。それが後に偉い者になつた所がそれから刀を持ち出して、人と喧嘩をして喜んで居たといふ話がある。さういふ風で被影響性が非常に強いのであります。普通の人ならば影響を受けるのも、それ程ではないのであります。それが著しく眼に付くのであります。大體さういふ風な事でありますが、モット具體的に病氣のことに就て御話をする、日本では澤山ない例であります。西洋の子供には澤山ある舞蹈病といふのがある。身體が舞蹈をするやうに動くといふのがある。字を書かせると字が妙な具合になつて、手が震へる。斯ういふ病氣が多い、ヒステリーの時分に申しましたが、ヒステリーの病氣のものは、身體を修飾したがる。體裁を飾りたがる。ヒステリーの性格を有つて居るものとは、少し變つた性格

で、矢張り修飾をやりたがる。それから文字を書くとき、前にも云つたやうに、大字になつたり小字になつたり、一直線にならずに歪んだりする。これは智力の劣つた白痴の者にあるばかりでなく、精神の疲勞した場合に、これが出て来るのです。字が亂れたりなんかするのは、即ち精神の疲勞した徴候であります。それから書いた字が汚なく、誤字が多くて非常に見苦しい。あれも智力の劣つた證據になる。無論これは結果から申したのであります。

それから前にチヨット申した癩癩であります。癩癩は卒然、顔色が蒼くなつて、眼が引付けるやうになつて、沈つとして頭が森々、一步一步に後ろの方に傾ぐ、引付ける。記憶力は非常に劣つて居る。さういふ風なのは多く癩癩である。

それから此癩癩とも限りませんが、舞踏病でもさうであります。ヒステリーでも何んでもさうであるが、物を問ふて、其問題に對して答

をするに、非常に苦痛を感じる。返答が直ぐに出て來ないでモゾ／＼して居る。先生などはそれを怒つて叱かる、叱かると一層悪くなつて来る。さういふ性格がある。これ等は矢張り神經の弱い詰り精神の薄弱から來るのであります。

それから顔であります。顔を持つて、異常の兒童であるとか、病氣の子供であるとかいふ風なことを見分けることは出來ない。これに就ては罪人などは一種の顔をして居ると、色々の學者の説もありませんけれども、これは、他に原因がある

ので少し問題が違ふのであります。斯ういふ風な顔がどう、さういふ風な顔がかうといふことはない。顔丈を以て判断することは出來ない。

それから醫學の専門の智識がないと、無論詳しいことは分りませぬけれども、或る病氣によつては、御取扱の場合に注意をして戴けば分るのがある。例へば百日咳、あの病氣は、晝は何んともなかつて、夜になつて發作を起す。母親も知らな

位くらである。あの顔かほは違ちがふのです。顔かほがムツ膨ふれて、下唇したくちびるが肥ふつて、軽かろい水膨みづぶれになる。殊ことに上眼うはま瞼たぶが下くだがる。さういふ子供こどもがあつたら、醫者いしやに見みて貰もらふことが第一だいいちです。

それからもう一つは、前まへに申まをした假性痴呆かせいぢめであります。これは、前額ぜんがくが低ひくて、鼻はながヒョロ／＼動うごく、鼻はなと口くちの境さかいの鼻唇びしんが下くだがつて、口くちが明あいて居ゐる。下額かがくが下くだりに下くだりたがる。口くちを明あけると非常ひじょうに齒並はなみが悪わるい、眠ねむると鼾いびきをかく、こんな徴候ちゆうこうの子供こどもは智力ちりよくの異常いじやうが多い、斯かういふことも御承知ごしょうちになつて居ゐれば、實際じつじに御便利ごべんりであらうと思おもひます。これ以上種々御話ごわ致いたしたいこともありましますけれども、大分時間おほいじかんも長ながくなつたやうでありますから、これこゝで御免ごめんを蒙かうります。(終)

蓮葉れんえつのにこりに染ぞまぬ心こゝろもて

何なにをか露つゆを玉たまとあざむく

事足ことたりらぬことな恨うらみそ鴨かものはぎ

短みづかかけれども潮うしほに浮うぶなり

(僧正遍照)

(鴨長明)

## 子供の色彩感覺到就いて(下)

菅原 教造

### 十二、ウインチ氏の實驗

前號ぜんごうでは色の感覺かんかくと、色の名なとの發達はつたつに就ついて、いろ／＼學說がくせつを紹介しょうかいしましたから、今度こんどは最近さいきんの研究けんきゆ者しやウインチ氏ウインチ(W. H. Winch)が英國えいこくに於おける所々ところどころの幼稚園ちういごえんで實驗じつけんした結果けつこを紹介しょうかいしやうと思おもふ。

此こゝの實驗じつけんを行なつた學校がくかうでは、鞠まり玉たまとし」といふやうな着色しやくしやくした器具きぐいを用もちひて、色名しきめいの教育けいよくを授まけ、且かつつ其そのの色いろは各學校かくがくかうを通とおじて餘あまり達たがなく、又また教師きょうしが色いろの名なを教授けいこうする時に、總すべての色いろの名なを公平こうへいに教おしへて居ゐるのであるから、兒童じどうは自分おのれの好このむ色いろだけではなく、總すべての色名しきめいに就ついて教育けいよくを受けて居ゐる譯わけである、故ゆゑに斯かう云いふ公平こうへいな教育けいよくを受けた兒童じどうに就ついて、色名しきめいの實驗じつけんを行なふことが出來たのは、實驗者じつけんしやに取とつては非常ひじょうな幸さいはいと云いふべきで、